

新しい総合計画にかかるタウンミーティング結果報告

日 時：平成 15 年 12 月 23 日（祝）午後 7 時 00 分～午後 9 時 20 分

場 所：つつじが丘公民館

参 加 者：22 名

審議会委員：森本副会長、藤島委員、辻本委員、竹田委員

稲沢委員、岡田委員、中森委員

市・事務局：企画財政部 家里部長、総合企画室 山口室長、高嶋主査、福田、栗山

(1) 開会（企画財政部長）
(2) あいさつ（森本副会長）

【午後 7 時 00 分～午後 7 時 10 分】

- ・ 9 月 24 日、市長から審議会委員に任命されました。
- ・ 平成 13 年度に総合計画（新世紀創造プラン）が策定されていたが、国の施策や地方分権の流れ、あるいは伊賀市への合併に住民投票で反対したことで、単独市政を選択したこと、人口も目標としていた 10 万人に届かないということから、財政面からも見直しの必要が生じました。
- ・ 市長は“福祉の理想郷”を目指しており、我々もそれが理想であると考えています。市民の皆様のご意見・ご協力をえて、行政と市民が一緒になって、これからの名張市のあり方をみんなで考えて、運営していかなければならないと思います。
- ・ 9 月 24 日に第 1 回の審議会が開催されてから、4 回の審議会が開催されましたが、各委員は熱心に取り組んでおり、広く・深く・豊かな考え方で審議をしています。これまでの審議の結果についても、皆様にお知らせをして、ここで皆様方からご意見をいただいて、今後の審議に役立てたいと考えていますので、ご協力をお願いします。

(3) 出席委員の自己紹介【午後 7 時 10 分～午後 7 時 15 分】

- ・ 稲沢委員、岡田委員、辻本委員、中森委員、藤島委員、森本副会長、竹田委員の順で、自己紹介を行う。

(4) 基本構想（原案）説明（事務局）【午後 7 時 15 分～午後 7 時 45 分】

- ・ 「基本構想（素案）＜概要版＞」をもとに、「名張市総合計画審議会の主な論点」と併せて、基本構想（原案）の説明を行う。
- ・ 「前期基本計画（素案）の概要」に基づいて、説明を行う。

(5) 意見交換【午後 7 時 45 分～午後 9 時 20 分】

各委員の総合計画に対する考え方について

(委員)

- ・ 現在、私は四日市に住んでいて、これまでに仕事の関係で東京・金沢・ロンドンでも何年か暮らしていましたし、学生時代は仙台で過ごしました。このように様々な所を歩いている人間だからこそ見えるものがあると思い、総合計画審議会に参加することにしました。
- ・ 基本構想について、私は 2 点感じる所があります。
名張らしさということ...外から観ると、“名張らしさ”という風土が感じられます。“市政一新市民会議”に参加させてもらっていますが、エネルギーというか、活力を感じます。その要因のひとつは、3 万人の人口が 8 万人に急増するという様々な所から入ってきた人の力が、活力になっているように思います。もうひとつの要因は、大阪まで 1 時間、名古屋に 1 時間 30 分で、京都・奈良・滋賀にも近いという結節点であることから、人の移動が激しいということです。
人口急増によって、高齢化が進んでいますが、高齢化とは経験と知識、知性を備えた人が、一気に増えるということだと思います。
イギリスやヨーロッパの研究をされていて感じることは、市役所のすべきことが変わってきているということで、あれかこれかの選択という言葉がありますが、何のための役所なのか、何のための仕事なのかをよく見極めることが大切だと感じます。パートナーシップということで、誰もが自分のやるべきことをやるということです。
- ・ そのような視点から、市役所主導の計画ではなく、“みんなの意見を聞いて作るみんなの計画という時代”だと考えます。

(委員)

- ・ 私は、大阪で生まれて、東京で 13 年暮らし、大阪・名古屋にも居ました。名張は、空気と水のおいしい所ということぐらいしか知りませんでした。何故、名張はこんなのだろうとカルチャーショックを受けました。でも今では、とても名張を愛しているので、名張で骨を埋めようと思っています。
- ・ 私は、老人クラブの役とともに、ボランティア連合会の役もやっていますが、市民活動で何とか名張をよくできないかと思っています。市民活動で、市の経費が助かればと思っています。自分の経験や知識を活かしていきたいと思っています。

(委員)

- ・ 私は、名張生まれの名張育ちです。名張市は、旧町・団地、新住民・旧住民という

呼び方があり、まとまりのない市という印象がありましたが、総合計画審議会に関わって、皆さんの意見を聴くなかで、今こそ、名張の住民として、名張がひとつになる時だと思います。垣根を取り除いて、総合計画というひとつの花を咲かせたいと思います。

(委員)

- ・ 私が一方的に話すよりも、今日は皆さんの意見をお伺いしたいと思います。

(委員)

- ・ 竹田委員と同級生で、10年前に東京から帰郷したUターン組です。名張に戻ったときは、3万人の人口が8万人になって驚きました。7年前阪神淡路大震災で、非常にカルチャーショックを受けて、思ったことがありました。
- ・ 震災のときに、隣で埋まった人を警察や消防が助けられないという状況で、最終的に自分たちのことは、自分たちでやるしかないということを感じました。
- ・ 名張もそのようなまちであって欲しいと思って、市民が参加できるような住民が創りあげる名張を目指して何かできないかと思って、この何年か活動しています。
- ・ 審議会の委員として、住民参加のしやすいシステムづくりに力を入れたいと考えています。
- ・ 行政の方も昔と違って、住民の意見なくしては素晴らしいまちが、出来ないということをも充分に分っているというスタンスです。
- ・ 若い世代が、市政に対する関心が低いのが残念ですが、それを総合計画の施策のなかに盛り込んで、住民の参加しやすい、自分たちのまちづくりができれば良いと思っています。

(委員)

- ・ 21年前につつじが丘に引っ越してきました。個人的には、緑が多くて、水がきれいで、自然いっぱいの名張が大好きです。縁があって、5年前に市議会議員という立場になりました。
- ・ ある定年退職した方から、すごく元気なので、ある程度の経験を持った私たちが活動することはできないかというお話しがありました。基本構想の中にもありますが、市民活動を充実させていくということ、何か人のためにすることで、幸せを感じるということを思っています。
- ・ 3年ぐらい前に、プロップステーションというボランティア団体を立ち上げた竹中なみさんという方と出会いました。竹中さんは、超重度の障害のある子どもさんをお持ちで、障害者を納税者にするという活動をされています。措置されるという福祉は、本当の幸せではなく、自分を精一杯生かすという生き方が幸せであるという言葉も

いて、私はカルチャーショックを受けました。これから高齢化が進んでいくなかで、1人ひとりが幸せを感じるまちづくりが必要だと感じました。

- ・ それについては、今回事務局から提案されている総合計画の中にそういうものが、随分、活かされていると感じています。

(副会長)

- ・ 私は、富永市長の就任間もなく、総合計画の審議会委員を勤めさせていただきました。そのときに、兵庫県の三田市を訪問したことがあります。三田市では国の施策で、開発が行われ、県も力を入れていました。名張市では、近鉄が開発をしましたが、ほとんどは市内の資本が開発を行い、人口増加をいたしました。当時は財政的にも恵まれた時代でしたので、国からの支援もあったのだと思います。
- ・ その当時からみると、現在の名張市の状況は、財政的に大変逼迫した状態のなかで、総合計画を立てていかなければならないという状態です。そこで、皆様方をお願いするのは、右肩上がりではないということで、現在の維持が大変であるということの基本において、意見を出してもらいたいと思います。皆様方の意見を今後の審議に役立てたいと思っています。

意見交換

(参加者)

- ・ 過去の行政の失敗を審議会で議論しているのかどうか分からない。何故、失敗したのか、説明責任がある。そういったステップを踏んで、市民に充分に分ってもらうことが、最初のポイントである。

(事務局)

- ・ 審議会では、失敗がどうかという議論がなかったので、事務局でお答えします。ふたつの原因があると思われます。ひとつは、名張市だからというわけではなく、バブル経済が破綻してから、何年にもわたって、景気浮揚対策が執られました。いわゆる「景気回復なくして、財政再建なし」ということで、巨額の赤字国債を発行しながら、景気浮揚対策をしてきました。この政策により、名張市だけでなく、国も、地方財政も逼迫してきました。国・地方併せて、700兆円の赤字国債があります。来年度の国の税収が一般会計で、46兆円、これに対して国債の新規発行が36兆円と借金を重ねている状況にあります。

ふたつめは、名張市独自の原因ですが、平成12年度の総合計画策定の際、どのようなシミュレーションをしても、かなり控えめな数字を使用しても、人口が減ってくるという結果にはなりません。税収も同じことです。それと、税収が落ちれば、交付税で補填されるという財源保障機能の縮小といったことが大きな原因だと思います。

れます。鈍化はするが、右肩上がりが続くだろうということで、当時の市長が掲げていた7大事業を積極的に推進してきましたが、人口が鈍化から減少に転じてきました。これを失敗というならば、失敗であったと思います。ただ、様々なシミュレーションをしてきましたが、平成12年度から人口が減少するということが予測できなかったことも事実です。

(参加者)

- ・ 民間の企業であれば、トップが交代するところだが、行政というのは、誰が責任を取るのか、その辺りが曖昧模糊である。この姿勢は変えなければならないと思います。問題解決型の行政であるべきである。失敗は失敗で大きな成果として、評価すべきである。そうしなければ、我々に伝わってこないし、そうした方が新しい総合計画に、比較的スムーズに入ることができる。

(参加者)

- ・ タウンミーティングという姿勢は良いと思う。市の姿勢として、地元でやれという感じだが、一番困るのは、住民の反応がないということです。先程、稲沢委員も高齢化の話をされましたが、そういった方がなかなか動いてくれないということで、ひとりがあらゆる役をしないといけません。一生懸命やっても、住民の反応がない。成功させるためには、住民パワーの底力を出さなければならないと思います。例えば、区長と自治会長があるが、区長制度にも問題がある。ある区は区長で、ある区は自治会長でよいという制度にしてもらわないといけない。市の仕事はしても、地元の仕事はしないという区長もいる。何かの仕組みを作るのは永遠のテーマだと思います。

(副会長)

- ・ 私は、桔梗が丘在住ですが、ここは自治会もありますか？それだけ幅広く活動範囲があるということだと思いますが、2通りあるということはそれだけ力が分散するのかもしれないし、今、言われたように人がいないということは、どこにおいても、問題になることです。力や耳を貸してもらおうとすると、地域のコミュニケーションが必要になると思います。

(委員)

- ・ 最初にご意見を言われた方も通じるところがあるように思います。行政が仕事を抱えすぎているのではないかと思います。2002年度までの市役所の仕事を棚卸しすべきというご意見ですが、お金がなくなっていくのに行政がお金をかけて仕事をやるのではなく、これまでどれだけの仕事をやりすぎていたのか、本来、必要なものを最低限やるというように、地域の方々にマンパワーとしての財産があるのであれば、

線の引き方を変えることが必要だと思います。

- ・ ただし、行政がやらなければならないことは、確実にしっかりと限られた職員の中で、生命・財産を守り続けるということだと思います。

(参加者)

- ・ 区長をやっているが、何も知らないので、教育をしてもらいたいと思う。色々な資料が来るが、何も分らないので、何もできない。

(副会長)

- ・ 市の方で、研修会ということですか？年に一度か、二度、区長総会などで、市の基本方針などをお話しして、理解をえるということは大事なことだと思います。

(参加者)

- ・ 区長総会ではなく、具体的な区長研修会をお願いしたい。

(副会長)

- ・ わかりました。

(参加者)

- ・ 基本計画について、マニフェストが出されているが、行政のやる分、市民のやる分というのがわからない。窓口が見えない。
- ・ 平成 13 年度までの財政はどうであったのか、平成 14 年度の財政の内訳はどうなっているのか。

(事務局)

- ・ 50 の施策については、様々な主体によって進めていくということですが、今は行政がやると想定していても、今後変わっていくものもあると思われますので、それについては、あまり固定的には考えていません。基本計画については、行政の取組みを中心に、目標数値を掲げています。
- ・ 窓口についてですが、地域の問題については、基本的にはまちづくり支援室が窓口となります。その他のことですが、専門的な窓口については、それぞれの室をご案内しますが、まずは総合企画室ということになります。
- ・ 中期財政見通しについては、基本計画の中に入れさせていただく予定をしています。市税、地方交付税交付金につきましては、現状より減少の見込みです。財政的には、非常に厳しい見通しですが、小中学校の統廃合や様々な分野で民間委託をする、あるいは職員の削減を行うといった大胆な改革を進めることによって、基本計画に掲げた

内容を推進することができると思っています。先程、稲沢委員からも話がありましたように、様々な分野で市民の皆様にご協力をいただくということが前提になりますが、達成することができると思っています。

(参加者)

- ・ ということは、財政的な裏づけはできていないのか。

(事務局)

- ・ いいえ、基本計画を策定する段階で、財政的な裏づけをベースにしていますし、逆に言いますと、基本計画を実現するためにはどういう財政運営が必要になるかという発想で検討を進めています。

(参加者)

- ・ 前期基本計画の概要の 12 頁について、大地震でつつじが丘が分断することが考えられますが、消防・救急というところで、救急救命士の配置人数が現在 9 人ということですが、どこに何人いるのか私は知りません。つつじが丘には救急車がありませんので、つつじが丘にも救急救命士を配置するようなことを計画に組み込んでもらいたいと考えます。3 年後に 12 人ということは、1 年で 1 人ずつ増やしていこうということですか。

(副会長)

- ・ 救命救急士は、現在 9 名で、各消防署に配置されているということだと思いますが
…
- ・ 詳しいことは消防本部に聞かないとわかりませんが、氏名を明記して、どこに誰がいるということを明らかにということですか？

(参加者)

- ・ 名前でなく、どの消防署に何人いるのかということ。9 人で 24 時間まわしているということだと思いますが、毎年 1 人増員ということですが、つつじが丘にも 1 人配置して欲しいという声があります。分断された場合、透析やインシュリンの供給の問題があるが、県の防災ヘリコプターは 1 台しかないということですが、医師会との連携はどうなっているのか。

(委員)

- ・ 三重県には、ヘリコプターが 1 台しかありませんが、緊急の場合は、航空自衛隊の八尾空港からヘリコプターが来ることになっています。三重県のヘリコプターは、天

候が悪いと、エアポケットがあって、青山峠を越えることができません。一昨年の防災訓練の際には、航空自衛隊、神戸市の消防局、徳島県の消防局のヘリコプター等がたくさん来ました。マグニチュード7以上になると、海が無いので、伊賀は孤立するので、防災協定を結んでいます。

(参加者)

- ・ 私はつつじが丘で、婦人防火クラブを作って、訓練などを行っています。普段から思っていることは、何故、新しい消防庁舎ができないのかということです。はしご車の車庫は消防庁舎から遠い所にあるので、いざというときに不便だと思います。

(参加者)

- ・ 保健委員をやっているが、1月に保健委員の主催で、つつじが丘で骨密度や体脂肪の検査をします。骨密度を測定する機械を医師会で借りることができなかったので、保健センターで津まで借りに行ってもらうことになりました。私たちも精一杯動きまでするので、協力をお願いします。

(副会長)

- ・ 新しい消防庁舎の建設は、市の大きな課題として、入っています。いつかわかりませんが、早く実現できれば良いと私たちも思っています。

(参加者)

- ・ 基本構想には、色々なことが盛り込まれていると思います。画に描いた餅ということがあるので、審議会委員の皆さんしっかりと監視をして下さい。

(副会長)

- ・ 審議会でも大変議論になっています。それは、実現に向けた戦略であるとみんな考えています。

(委員)

- ・ これまでの審議では、皆さん本当に事務局の方が苦虫を噛み潰すような意見を言っておられますし、意見を聞いてもらっています。役所でも評価システムの検討されているようですし、我々も任期の2年間はしっかりとチェックをしていきたいと思っていますので、おまかせ下さい。

(委員)

- ・ 画に描いた餅ではダメということで、毎回の審議会で言っています。ひとつは、まちの自立、地域の自立ということで、先程も話がありましたが、マンパワーがなかなか引き出せないということ。市民が参加できるまちづくりを目指すなかで、何かしようとしても、なかなかできない。何か手助けが欲しいと思うときに、今までの行政システムではできないことが多くて、マンパワーを引き出すことができないということだったと思います。その中で、余計なお世話ではない手助けのできるシステムを基本構想のなかに盛り込みたいと考えています。

(参加者)

- ・ 基本計画の13頁について、“生涯学習インストラクター”が0人から50人ということですが、“生涯学習インストラクター”というのとは何か、また、“人材バンク”というのとはどんな目的のものか？

(副会長)

- ・ “生涯学習インストラクター”や“人材バンク”をまだ初めていませんので、0人ということになっています。これから市民に呼びかけて、市民に登録をしていただくこととなります。

(参加者)

- ・ “生涯学習インストラクター”というのとは、何ですか？

(事務局)

- ・ “生涯学習インストラクター”とは、生涯学習やまちづくりの指導者になっていただく方を所定の講習を受講していただき、インストラクターとして登録するというものです。

(参加者)

- ・ 空き地の雑草について、25箇所まで草刈りに来ていない所があった。そのうち、15箇所は、もう何年と刈りに来ていないことがわかりました。ペナルティを課すことはできないか？

(委員)

- ・ 消防署が調査して通知をしています。これまでは、土地の所有者が、地域の団体や不動産に草刈りを委託していましたが、最近は景気が悪くて、1回で8千円から1万円くらいかかるので、その金が惜しいので、刈ってないのではと思います。行政が刈ると、自分でやっている人から、不満が出ますので、それはできないと思いますので、

もう少し、消防署からやかましく言ってもらわないと仕方ないと思います。

(参加者)

- ・ ごみの件ですが、高齢化が進み、高齢者には負担になるので、自分たちで個別収集しようと検討していましたが、法規制があり、ダメということであった。改革しようとしても、法規制があってできないことがある。

(参加者)

- ・ コミュニティビジネスについて、具体的にどう考えるのか？公民館の地域委託というのは、典型的なコミュニティビジネスだと思うが、法規制があり現実には何も変わらない。
- ・ ボランティアも集めづらい。ボランティアに参画してもらうのは、非常に困難なので、支援システムづくりを待とうかという感じもあります。

(委員)

- ・ ボランティアを集めるのは、熱意しかないと思います。一生懸命やれば、誰かがついてきてくれます。

(委員)

- ・ 先程のご意見について、ごみの収集についてもですが、法規制については、緩めようという方向にあります。その代表的なものが、特区構想です。法規制に反する条例を作ることは出来ませんが、法の一部を緩めることはできますので、必ず道はあると思います。地域が地域を良くしようとする行為を法が規制するというのではなく、それを支援するのが法治国家の役目だと思います。
- ・ 先程、マニフェストという言葉を出された方がいましたが、マニフェストというのは、期限・財源・目標付きで出てくるものです。基本計画には期限と目標しか出ていません。基本計画の段階は、これで良いと思います。市に求めたいのは、実施計画では財源を明記する必要があると思います。

(参加者)

- ・ 子育て支援について、小学校の空き教室を利用して、保育所の待機児童の解消を図ってはどうか？

(副会長)

- ・ 当然、委員としてもそうあるべきだと思っています。ただし、財源的な保証が私たちにはありませんので、そう考えて、案を出すしかありません。

(参加者)

- ・ ごみの適正処理ということで、最終処分場の年間処理量が4分の1に減るのか？針葉樹と広葉樹の混交林の面積が0から20~30haになっているが？

(事務局)

- ・ 現在、プラスチック系のごみは、燃やさないごみになっていますが、プラスチック系のごみの資源回収化を進めることによる減量を見込んでいます。生ごみについても、できる限りの資源化を図っていくという方針です。
- ・ 針葉樹と広葉樹の混交林の面積についてですが、現在補助制度を設けて、植生の多様化を図ろうとしています。今後は、森林ボランティアの仕組みづくりなどにより、森林環境の保全・植生の多様化という施策を行います。100年、200年かかりますが、今から進めていきたいと思います。ほとんどが民地なので、受け入れてもらえるところが前提です。広葉樹に転用した方が良いと思われる所を分析した上で、施策を講じます。

(参加者)

- ・ 猿の問題があるので、人との共生ということで...質問しました。

(事務局)

- ・ 豊かな森林環境というのは、生物の多様性が確保されていることだと考えます。

(参加者)

- ・ 一番基本的な「明るく、安全で、快適な生活」ということでいうと、大切なことが忘れられている。春日丘に住んでいるが、オートバイで暴走している。警察の怠慢なのか、あるいは財政不足で警察の人数が足りないのか、わからない。どういう理由で取り締まれないのかよくわからない。国の法律で網が被せられないというのであれば、先程の話にあったように、名張独自の条例などを検討してもらえないか。
- ・ 年齢も若年化してきている。たぶん中学生くらいだと思う。ということは、中学校教育は何をしているのか？
- ・ ナンバープレートを外してるような車両を通報して、警察が訪問して捕まえるとかできないか？

(副会長)

- ・ そういった車両は、昼間は物陰に隠しておいて、夜になると出してきました。
- ・ 警察でもきちっと補導したいと考えていると思います。ある時期、20人程捕まる

ことが、1年に1回くらいありますから...

- ・ 住民から通報してもらわないと、警察も動けないと思います。

(参加者)

- ・ 12頁には、危険箇所の整備ということで、老朽ため池の整備しかないが、土砂崩れ等の対策は検討してないのか？

(事務局)

- ・ これがすべてというわけではなく、危険箇所というのは、急傾斜地・道路・治山治水といったものがあります。そのすべてを数値化するということは、現実的ではありません。危険箇所の整備については、これまでも進めてきましたが、これからも進めたいと思います。

(参加者)

- ・ 「まちづくりの人材育成」については、第5章の「新しい時代を拓く、自立と協働による地域経営」に入れて、まちづくりの育成支援体制とした方が、明確になるのではないかと？

(副会長)

- ・ 色々と考え方によって、観点の置き方で書く場所が変わってきたりしますが、わかりました。

(参加者)

- ・ 次回からは、事前に資料を配布してください。

(事務局)

- ・ 本日は参考として基本計画の概要を配布させていただきましたが、基本的には前に全戸配布させていただいた基本構想についてご意見をお聴かせいただきたいと思っています。

(委員)

- ・ 本日はどういった名張市にするかという基本的な考え方をお伺いしようということでお邪魔したが、ほとんどのことは普通の市政懇談会で、答えるべき質問でした。高齢化し、若者が都会へ出ていくという深刻な問題をどう解決するなかで、どうすればよいか。産業を誘致するとか、そういったことを出してもらえればと思います。我々は、具体的なことを約束できませんので、案に入れるしかできません。監視するのは、市

議회가します。

(参加者)

- ・ 金が無いと何もできないので、もう一度落ち着いて、合併を検討してはどうか。そういう可能性はあるのか。

(委員)

- ・ 総合計画の場合は、そういうことに触れてもいいと思います。実は、今日、青山町で、住民から役場に直接請求が出されましたが、青山町の住民のほとんどが名張につきたいと思っています。青山町民の中には、一緒になるなら、消防もごみも一緒にやっていて、近鉄沿線の名張市と考えているようです。

(副会長)

- ・ 他にご意見がないようですので、これで終了いたします。